



同窓会会長
堀江 裕宗
2003年3月卒業 科学技術学部
応用情報工学科
(現:知能情報システム学科)

会長挨拶

この会報が皆さんのお手元に届く頃にはオリンピック・パラリンピックが終わり、コロナ場への対応が新たなステージへと進んでいると思われれます。今はまだ見通しが不透明なコロナですが、ワクチン接種が進み「日常」といえる日々が戻ってくる事を切に願っております。

4月より加賀谷 豊学長が就任され、大学も新たなステージへと進んでおります。私事ではありますが、このコロナ場中で在籍する会社ももちろん影響を受けました。そんな厳しい状況下ではありましたが、会社の改革は一気に進むことになりました。リモート環境、DX推進、新事業、最近ではSDGsなど、従来では考えられないスピードで進められて行きました。勿論それだけで現状を打破できるとは言い難いですが、こんな状況だからこそ改革や変革というものが加速的に進んだと言えると思います。これが良かった事なのかは今ではなく、何年かしてから評価されていくことでしょう。大事なのは行動する事であり、自分のまわりや世の中的环境が変わっていく中でどれだけ早く適応していけるが重要ではないでしょうか。

同窓会として直接的に支援できるような仕組みはまだありませんが、同窓会として会員の皆様の交流の助けになれるよう、今後とも頑張っていきたいと思ひます。

2021年3月現在 正会員数 10,084名

各々のステージで 活躍する輝人に金メダル!!

上を目指し、たゆまぬ努力を惜しまないその一人一人の胸に金メダルがある。
今回は各学部学科より、金メダルを胸に秘め、あくなき挑戦を続ける卒業生をご紹介します。

私の考える理学療法士像

2018年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻
自治医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 理学療法士

天間 翔太



「これから何の分野を専門に生きていきますか?」入職して3年が経ったある頃、上司に言われたことです。

最近、理学療法士の領域では専門性が大切だということをよく耳にします。しかし、当院の臨床現場では複数の疾患を抱える患者さんが多く存在し、ひとつの専門分野だけを極めていては到底対応できないことを経験します。心不全で入院した患者さんが、歩くのが難しく困っていたらどうでしょう。私は循環器が専門なので膝は他の病院で治してくださいと言いますか?私は専門性に捉われず目の前の患者さんを大切に、どんな患者さんにもまともな医療を提供できる理学療法士を目指したいと考えています。

ある専門書の序文に、鍛錬の鍛とは1000日(約3年)練習をして技を磨くこと、錬は10000日(約30年)練習をして技を磨くことと書いてありました。 myself、鍛の時期は過ぎましたが、理学療法士の道はまだ始まったばかりです。

看護師として働き始めて

2019年3月卒業 医療福祉学部 看護学科
看護師

阿部 真梨子



大学を卒業して3年が経ちました。学生のときは実習で患者さんと上手くコミュニケーションをとることが出来ず、辛いこともありましたが、看護の勉強は楽しく、無事に国家試験に合格して幼稚園のときからなりたっていた看護師になることができて嬉しく思っています。

私は現在、精神科の看護師として働いています。精神科では身体管理だけではなく、目には見えない精神面の看護でもあるため、疾患により関わり方に悩むことはありますが、病棟のスタッフや他職種と情報共有しながら看護を行っています。処置などの技術面で悩むこともありますが、患者さんからの「ありがとう」という言葉や退院が決まったときはとても嬉しく思います。

現在、新型コロナウイルスが流行しており、病棟も忙しくストレスはかかりますが、感染対策をとりながらのストレス発散もしつつ、これから責任をもって看護師の仕事頑張っていきたいと思ひます。

4年目になって

2018年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚聴覚専攻
いきいき眼科クリニック 視能訓練士

菅野 彩



早いもので社会人生活も4年目に突入しました。2年目の途中からは視能訓練士としての検査業務以外に、手術での外回りの業務にも携わるようになり、毎度緊張感のある中で多くの事を学ぶ毎日です。検査では小児の検査を行う事も多く、初めは泣いて嫌がっていた検査を上手に出来るようになった時は、成長を近くで見れた事を嬉しく思うと同時に、視能訓練士としてやりがいを感じる場面でもあります。検査では患者さんと1対1で向き合うので、負担を少なくしてスムーズに検査を行うには、どうやって信頼してもらえるかを考えて接しています。現在は検査業務と手術での外回りの他に、診察介助、先生の研究に必要な検査データの入力等の業務を行なっています。今年も後輩が入り、教える立場になることも増えました。4年目になって日々勉強なので、学ぶ時には素直な心を常に持ち、視能訓練士として向上心と探究心を忘れず、1日1日を大切に過ごして行きたいです。

聖火ランナーとして

2013年3月卒業 医療福祉学部 保健福祉学科 保健福祉専攻
社会福祉法人 燐々会 指定就労継続支援B型事業所 あすなろホーム

主任 目標工賃達成指導員 星 優希



今年、私は聖火ランナーとして岩手県の大槌を走りました。当日は、大槌の方々の声援もあり無事に聖火をつなぐことができました。

私が、聖火ランナーに応募した理由は2つあります。1つは、感謝の気持ちを伝えることです。私は、岩手県の大槌市出身で10年前の東日本大震災では大きな被害にあいました。震災直後から今まで国内外からたくさんの方々の支援をいただきました。復興に向かって歩む中で皆様からの支援はとても大きな力になりました。

もう一つは、スポーツの楽しさを伝えることです。大学時代に障がい者スポーツを学びその楽しさや可能性を感じました。

私が、走ることでどれだけ思いを伝えられたかわかりませんが元気に走る姿を世界に発信することができました。今後は、聖火のトーチをたくさんの方々に触ってもらう予定です。そして、今後も感謝の気持ちを忘れずにより多くの方々にスポーツの楽しさを伝えていきたいです。

将より参謀

2003年3月 科学技術学部 環境計画工学科
2005年3月 大学院 健康社会システム研究科
生活環境情報専攻

井上 美樹 (旧姓:寺島)



「自分は参謀タイプ」大学院在学中だったか、そんな風に自己分析をしていました。

現在、私は夫と共に設計事務所を営んでいます。夫は新卒の頃から独立志向。私は結婚を機に一旦建築から離れ、将来の起業に備えて企画・運営や会計、総務、労務に関する経験を積んできました。

7年程前、満を持して開業当然ですが、会社は設計だけをしていざばり立つものではありません。また、良き参謀がいてこそ、将は力を存分に発揮できるものだと思います。設計業務をサポートしつつ、会社運営を一手に引き受け、参謀として日々精進しています。

建築は、行きつ戻りつ、試行錯誤しながら様々な作業を積み重ねて造られるものです。学生時代、建築を通して得た経験、鍛えられたマインドが現在の会社運営に役立っています。

今後も参謀として(たまに将の顔が出てくる気もする)、社会に貢献できる会社を目指し邁進していきたいと思います。

意外性の再認識

2016年3月卒業 科学技術学部 知能情報システム学科
株式会社アクロビジョン 製品販路/営業

早坂 晴哉



大学卒業後、システムエンジニアとして就職しましたが、1年半後転職。転職先は外資系コンサルの企業を選択し、大手携帯キャリア内PJへ属しサブマネージャーとして2年弱東京で勤務しました。仕事内容がシステムエンジニアから管理職へ変化した、マルチタスクをこなしていく毎日でした。その後家庭の事情で宮城へ戻る事を決め、転職。

転職先はIT系企業、仙台で新規拠点を立ち上げることとで支店長 兼 営業 兼 エンジニアという、またもマルチタスクな業務内容となり、現在に至っております。

正直なところ営業や管理職は絶対に向いていないと学生時代は思っていました。今となっては天賦に感じています。

これから就職という方へ一言。

その仕事ややってみて初めて天職が分かるので、まずは何事も挑戦してみよう。

実は自分自身気が付いていないだけで、意外性を秘めているかもしれません。

出会いと学び

2015年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻
国立病院機構宮城病院 作業療法士

佐藤 好



東日本大震災直後に入学し、10年が経過しました。県内の被災地にある病院で勤務し始めて7年目となります。当院では脳血管疾患や神経難病、重症心身障害児(者)の方々を中心に診療を行っています。また昨年度より訪問看護ステーションが開設となり、訪問リハビリテーションが開始となりました。作業療法士としての役割やアプローチについて悩むこともありましたが、地域の患者さんとの関わりは、被災地の方々の生活の変化や地域で暮らすことの大切さなど、学ぶことがとても多いです。

院外の活動としては東北身体障がい者水泳連盟で障害をお持ちの方に水泳指導やクラス分け委員として活動しています。院内外で活動する中で、東北化学学園の同窓生と出会うことが多く、本学の卒業生の活躍の場が多岐にわたっていることを実感しています。今後もたくさんの方との出会いや経験を大切に、作業療法士として日々精進していきたいと思います。

コミュニケーションを学ぶ

2019年3月卒業 総合政策学部 総合政策学科
カメイ株式会社

齊藤 俊



大学時代から勉強に興味を持てなかった私は、4年生の6月頃になってようやく就活を始めた。最初に受けた気仙沼の会社で内定をもらいましたが、親から6月1日受けてみたら、と勧められたのがカメイ株式会社でした。

私が所属した岡ゼミでは、WorkingDogsというサークルにも入ることが義務付けられていました。WorkingDogsは、災害救助犬の捜索のデモンストレーションや認定審査会のヘルパーなどを行うサークルです。仕方なく入ったサークルでしたが、この活動が珍しかったらしく、カメイの面接で話題が集中し、大変盛り上がりました。また、キャリアサポの菅原さんの面接指導も非常に参考になりました。私は言われた通り、カメイの数多い事業部の内容や営業所の場所などをすべて暗記して面接に臨み、運良く内定をいただきました。

カメイへ入社した当時は、様々なお客様に対応することが難しく悩んだ時期もありました。私は意見をしっかりとタイプで、お客様に寄り添うようなコミュニケーションができていなかったのだと思います。そんな時に先輩の営業に同行し、先輩がお客様一人ひとりに合わせて話し方を変えているのことに気づきました。その先輩のお客様との対話を真似てみたところ会話が進み、初めて契約をいただくことができました。私の説明に納得して契約していただけたと思うと、本当にうれしかったです。

現在は、お客様一人ひとりのニーズに合わせた対応を心掛けています。社会に出て学んだのは、お客様からの頼み事は瞬間で動くことがとても大事で、それが信頼にも繋がるという事です。

聴覚領域に携わるSTとして

2021年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 言語聴覚専攻
秋田県 耳鼻咽喉科病棟 言語聴覚士

山田 遥咲



私は現在、秋田県の病院にて小児・成人の難聴者を対象としたリハビリテーションを行っています。言語聴覚士(ST)と聞くと、食べることを話すことにアプローチするイメージが大きいと思います。難聴者を対象として臨床を行うSTは全体の1割程度と言われており、まだまだ人手不足であるのが現状です。当院は秋田県内にて唯一人工内耳埋込み術および術後のリハビリテーションを行っているため、県内のみならず近県にお住まいの人工内耳装着者さんも通院しています。人工内耳を装着する限り(ハビ)が必要になるため、1人の患者さんと長く関わり支援していけることも聴覚領域に携わるSTとしての魅力であると思います。

難聴の程度は軽度〜重度と様々ですが、必ず一人ひとり抱えている悩みがあります。その思いに寄り添った支援をしていくために出会いや経験を大切にし、今後人としてSTとして成長していきたいと思います。

臨床工学士として

2021年3月卒業 科学技術学部 臨床工学科
東北大学病院 臨床工学士

坂本 朝陽



私は今春大学を卒業し、4月から東北大学病院で「臨床工学士」として働き始めました。「Iのちのエンジニア」と呼ばれる臨床工学士は、医学の知識とともに工学の知識も求められ、主に「生命維持管理装置の操作および保守点検」を行います。

新型コロナウイルスによる感染拡大によって、在学中の「臨床実習」を経験しませんでした。最先端の臨床に飛び込み早3ヶ月が経過しました。毎日が勉強で、先輩方や患者様から学ぶことが非常に多くあり、「試験前の一夜漬け」を毎日行っている状況です。それでも充実感があり、社会人としての振る舞いや医療人として、少しずつ成長している気がしています。今は先輩について手術室や集中治療室などに足を運ぶことも、主に血液浄化療法に従事することが多いのですが、早く一人で業務を行い、スタッフから、そして患者様から信頼され、「自身が先端医療に貢献している」と言える臨床工学士になるため努力しています。